

平成29年度 学校評価総括表 伊丹市立伊丹高等学校

教育目標	人格の完成をめざして知・徳・体の調和を図り、平和的な国家及び社会の形成者として資質の向上に努め、心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。 ①自立の精神を養い、正しい判断力と実践力の育成を図る。②豊かな情操の育成と基本的な生活習慣の確立を図る。③学習意欲を向上させ、生徒個々に応じた学力を伸長する。
重点目標	“可能性への挑戦”伸びる力をより伸ばす教育の実践 ～伊丹から世界へ・グローバル人材育成プロジェクトを通して～ (1) グローバル人材の育成に向けた多様な取組の推進 (2) 地域を理解し、地域に貢献できる人材の育成 (3) 自己実現を目指し、より良く生きるためのキャリア教育の推進 (4) 主体的で深い学びの上に立つ、自己教育力の育成 (5) 他者と協働するための、公共心と倫理観の育成 (6) 中高連携の強化

※ 自己評価のABCDについては、教員評価のaを5点、bを4点、cを2点、dを1点とし、5点満点で平均、A:4.0以上 B:3.0～4.0 C:2.0～3.0 D:1.0～2.0と表示している ※ 生徒アンケートについては別紙参照

項目	重点項目	具体的施策	達成目標	H28 自己評価	H29 自己評価	成果と課題・改善策	学校関係者評価
学力の向上	1 生徒一人ひとりの個性や能力に応じた教育の推進	・主体的・対話的で深い学びの研究・実践をする。 ・少人数授業や習熟度別授業など効果的な指導を研究・実践する。 ・授業改善に取り組む。	・主体的・対話的で深い学びの研究に向けて、研修会を年1回実施する。 ・習熟度別指導、チームティーチングなどを展開していく。 ・教員間の相互授業見学を実施し改善に取り組む。	B 3.3 教員評価 a:10.2% b:51% c:32.7% d:6.1%	B 3.7 教員評価 a:7.8% b:74.5% c:17.6% d:0%	・2学期後半に教員間の相互授業見学を実施した。「主体的・対話的で深い学び」の視点に立って相互授業見学を振り返る教員研修会を実施した。研修会をとおして、個々に応じた教育と指導形態の工夫について意見を出し合った。出し合った意見をどう生かすか、どう生かしたか、そしてどのような結果になったかを振り返るPDCAサイクルを確立する必要がある。	昨年末から取り組まれている、研究授業の成果が見られるのではないか。非常によい取り組みだと思われる。
	2 新たな社会への対応力を育む教育の推進	・各学年との連携を密にし、情報交換に努め、要望に応じた適切な情報提供に努める。 ・生徒のキャリア意識の向上を図る。 ・生徒向けの進路講演会・進路ガイダンス等を通して生徒に適切な情報提供を行う。	・各学年2回以上の進路講演会・進路ガイダンスを行う。 ・各担任はクラス生徒に対して各学期1回以上の進路面談、進路部は希望する生徒に対する進路面談を実施する。 ・生徒アンケート4「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか」の割合をAB合計1年生は85%以上、3年生は80%以上にする。	A 4.0 教員評価 a:22.4% b:65.3% c:10.2% d:2%	B 3.4 教員評価 a:17.6% b:43.1% c:37.3% d:2%	・各学年2回以上の進路講演会・進路ガイダンスを行い、生徒の進路意識の向上、進路選択に役立つことができた。 ・8月、12月に個別進路検討会を実施し、進路指導に関して、情報共有を行った。来年度は、検討会の時期を早し、教員が三者面談を行う前に検討会を実施し、面談等がスムーズに行えるようにする。 ・大学入試改革を見据えた進路研修を他部署と協力しながら、学校全体として行う必要がある。また、大学入試改革に関する情報提供を頻繁に行う必要がある。 (1年生)本年度は81%で目標達成できなかった。1年生としては、小テストへの取り組み生徒一人一人の意識を高めるのが課題である。改善策の一つとして、意識の高い上級生や卒業生の話を開かせることなどが考えられる。 (3年生)生徒アンケート4について、ABの合計が81%であった。評価Cの15%は、前年度より3ポイント減ってはいるが、まだまだ自分にとって効果的でないと判断している生徒が多いというところあり、生徒の要望を確認するとともに、小テスト等が自分の学力向上に有機的につながることを知らせるように働きかけていく。	目標設定が高めであるが、2012年の教育改革、高大接続改革や学習指導要領の大幅な改訂を目的に、教員の意識改革が迫られているため、自己評価が低くなったのではないかと感じる。
	3 生徒一人一人に応じた進路実現を図り、生徒が最後まで努力する体制をつくる。	・早朝、放課後、長期休業中の補習を充実させる。 ・きめの細やかな面談を実施し、生徒等が納得できる進路実現を図る。 ・トワイライト講座を実施する。	・生徒アンケート7「学校の進路指導に関する体制について、満足していますか。」の割合をAB合計で80%以上にする。 ・センター試験に200名以上出願する。(3年生)	B 3.5 教員評価 a:8.2% b:63.3% c:28.6% d:0%	B 3.6 教員評価 a:13.7% b:58.8% c:27.5% d:0%	(3年生)生徒アンケート7に関して、AB合計84%(前年度比108)であった。三者面談を含む個人面談を計画的に実施し、適宜個別に面談を実施するなど、きめ細かな進路指導を行った。担任を中心に学年団を含めた多くの教員の協力により面談等、進路指導を充実させることができ、成果を上げることができた。今後はAの割合を増やすために進路指導の組織的な体制づくりに努める必要がある。 ・センター試験出願者数は、198名(前年度比103)であった。 ・トワイライト講座について、進路指導との関連、位置づけ等は年度ごとに確認し、共通理解する必要がある。	昨年に比べ教員の評価のAが増えているところから、進路指導の成果がうかがえる。
	4 進路実現に向けて粘り強く取り組む	・生徒とのきめ細やかな面談や保護者懇談を通じ、進路を決定する。また、生徒本人が納得できる進路実現を図る。 ・センター試験受験への意識を高める。 ・学習会・補習の講座を充実し、また、自習室を設けるなど学習環境を整える	・生徒アンケート8「自分の将来の進路について、調べたり考えたりしていますか。」の割合をAB合計80%以上(2年生は90%以上)にする。	B 3.8 教員評価 a:12.2% b:69.4% c:18.4% d:0%	B 3.8 教員評価 a:23.5% b:54.9% c:21.6% d:0%	・生徒アンケート8に関して、AB合計83%(前年度比104)であった。大学見学会やオープンキャンパスの参加を通して進路決定に向けて具体的にイメージさせ、目標とさせることを図った。実現に向けては日々の学習と結びつけ取り組めるように個人面談等で関わっていく必要がある。 (2年生)生徒アンケート8に関して、AB合計83%であった。Aのみで見ると41%で前年度より3ポイントアップした。探究活動(探究講演会、卒業論文など)の推進が、自ら学習に取り組む態度へとつながるなど、生徒の「学び」への内発的動機付けにつながることができた。引き続き、生徒の探究の質を高めるために、内容の精選、指導法の研究をしていく。	
	5 進路目標を具体化させ、自ら学習に取り組ませる。	・利用しやすい進路指導室にして利用頻度を上げ、1年から進路に対する意識の向上を図る。 ・家庭学習の時間を増やす。 ・自らの進路目標を明確化する。	・生徒アンケート6「家庭での学習時間は平日に60分以上確保していますか。」の割合をAB合計2年生は50%以上、1年生は65%以上にする。	B 3.2 教員評価 a:6.1% b:49% c:44.9% d:0%	B 3.6 教員評価 a:17.6% b:54.9% c:25.5% d:2%	(1年生)本年度は57%で目標達成できなかった。しかしながら、前年度の52%に比べ少しは向上している。地道に意識付けを行っていくことが、有効な改善策のひとつであると考えられる。 (2年生)生徒アンケート6に関して、AB合計57%であった。Aのみで見ると31%で前年度より5ポイントアップした。「自宅学習開始時間、就寝時間、起床時間の固定」のいわゆる「3点固定」による規則正しい生活習慣が、学習のリズムを作り、「プレ」のない学習時間を確保することができる。進路目標を意識させ、それと結びつけていくように個人面談等を行っていく。	生徒の学習時間の確保が昨年より向上している。
豊かな心を育む教育	6 健全で安全な生活を営む習慣や態度の育成を図る。	・担任を除く全職員を登校指導に割り当てる。 ・遅刻、自転車マナー、服装、挨拶指導を強化する。	・登下校時の自転車事故を0にする。 ・風紀面で注意される生徒を5%以下にする。 ・自ら挨拶ができる生徒を60%以上にする。	B 3.7 教員評価 a:18.4% b:59.2% c:20.4% d:2%	B 3.4 教員評価 a:9.4% b:58.5% c:30.2% d:1.9%	・挨拶ができなくなってきたようにも感じている。全職員が同じレベルで問題意識を持ち、朝の立ち番やHR、学校生活の中で取り組んでいく必要がある。 (3年生)生徒アンケート18「生徒会行事や学校行事が充実していると思いますか。」の割合をAB合計80%以上にするを目標としたが、85%であった。最終学年と言うこともあり、それぞれが意欲的に参加し、周囲とも協力的であったのが評価につながったと考える。評価Cの12%は、前年度より5ポイント減ってはいるが、より積極的に関わるように声かけをしていく。 ・登校時のスマホ利用は、不必要な使用が事故を起こす危険があるので、今以上に注意を呼びかける必要がある。	自転車事故の数を減らすのが今後の課題である。
	7 生徒の内面の理解を深め、「こころの教育」の充実を図る。	・いじめ実態把握アンケートやネットマナー、自転車マナーに関する講演会を実施する。 ・いじめ実態把握アンケートを年に3回実施する。 ・教育相談、保健部やカウンセラー、いじめ対応チーム等との連携をとる。	・いじめ実態把握アンケート、教育相談などからいじめが発見されれば早急に情報を共有し対応する。 ・生徒の微妙な変化に気付くために挨拶を増やし、生徒とのコミュニケーションを積極的に行う。 ・教育相談を充実させる。	A 4.1 教員評価 a:22.4% b:69.4% c:8.2% d:0%	A 4.0 教員評価 a:15.1% b:79.2% c:3.8% d:1.9%	・立ち番や授業などで、生徒の変化を見逃さない。また変化があれば、情報を集めたり、情報共有を行い、複数の教員で対応できる環境を作る。 ・学習面の充実(授業・課題・補習)は大切だが、それによる過剰なストレスがかかると精神面で歪みができる心配もある。	
	8 生徒の内面的な理解を深めるため、健康相談および教育相談を充実させる。	・心の健康面に問題を持った生徒を早期発見し、関係分掌と連携し対応に努める。 ・スクールカウンセラーによる教育相談を一層充実したものにする。	・日常的に生徒の健康管理に努め、問題生徒のケアに努める。 ・保健部会において生徒状況の十分な情報交換に努める。 ・スクールカウンセラー・学年・担任・養護教諭と連携した協力体制を築き、職員全体での対応を図る。	A 4.0 教員評価 a:20.4% b:69.4% c:10.2% d:0%	B 3.9 教員評価 a:18.9% b:67.9% c:11.3% d:1.9%	・支援の必要のある生徒に対し、職員全体の協力体制をより密に連携していきたい。スクールソーシャルワーカーとも連携の強化を図る。(第2・4水曜日検討中) ・生徒の健康管理や支援の必要な生徒のケアに努めた。保健委員会において、生徒の状態など情報交換に努めた。特に心の問題については、早期発見努め、教育相談を勧めるなど解決策を探った。	
豊かな心・健やかな	9 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	・8時20分から「朝学習」を実施する。	・生徒アンケート12「朝や授業において、遅刻はしていませんか。(余裕を持った行動ができていますか。)」の割合をAB合計90%以上にする。(2年生) ・8時30分遅刻指導にかかる生徒は年間5名以下にする。(3年生)	B 3.9 教員評価 a:22.4% b:63.3% c:14.3% d:0%	B 3.6 教員評価 a:19.6% b:51% c:27.5% d:2%	(2年生)生徒アンケート12に関して、AB合計88%であった。登校時、余裕をもって行動できていない生徒には、時間的にゆとりをもって行動できるように意識づける。 (3年生)8時30分遅刻指導にかかる生徒は、5名以下で達成できた。 ・朝学習の成果と課題について検討の必要がある。遠距離通学の生徒が増える中、無理をして登校する生徒も少なくないかもしれない。また、生活習慣(睡眠時間)の問題も関連していると思う。	朝学習は良い取り組みだと思いが、時間の設定が早いので、生徒にも教員にも負担になっているのでは？学区が広がり遠方から登校する生徒も増えており、見直す必要はないか。

体		10 ・服装・頭髪の乱れをなくし、規範意識を高める。	・生徒アンケートで「服装・頭髪等の学校生活でのルールは守られていますか。」の割合をAB合計90%以上にする。	A 4.3 教員評価 a:42.9% b:51% c:6.1% d:0%	A 4.1 教員評価 a:37.3% b:51% c:11.8% d:0%	(2年生)生徒アンケート11に関して、AB合計97%であった。前年度より1ポイント下がったものの、Aのみで見ると75%で前年度より5ポイントアップした。引き続き、生徒自らが、理性をもって自分をしっかり自律できる、自由な人間となるよう、自分をしっかり見つめ考えさせていく。	
	生徒の健やかな体づくりの推進	・生徒保健委員会の自主的な活動を援助し、生徒の健康に関する興味・関心を高める。 ・保健委員の指導や保健だよりを発行し、健康に関する意識の啓発に努める。 ・流行性の病気への対応をはかる。	・文化祭・体育祭等の学校行事・保健行事ごとの保健委員会の活動を促す。 ・「保健だより」、行事ごとに生徒による「保健委員会だより」を発行する。 ・手洗い場所へ石けんを配置し、手洗いうがいの呼びかけ、手洗いの意識を高めるなど、病気予防のための環境整備につとめる。	A 4.0 教員評価 a:16.3% b:75.5% c:6.1% d:2%	A 4.1 教員評価 a:25.5% b:66.7% c:7.8% d:0%	・スマホ利用(ゲーム・SNS)が多く生活のリズムを乱しているため、生活習慣の改善を図れるよう以上に指導する必要がある。 ・学校行事、保健行事では、保健委員会が活発に活動を行った。 ・「保健だより」「保健委員会だより」の発行、掲示板の活用などで健康に関する意識向上につとめた。 ・病気予防のための環境整備として、消毒液の設置や換気の呼びかけなども行った。 ・スクールカウンセラーによる「レジリエンス講座」(ワークショップ)を生徒向けに6月、10月、土曜公開講座として12月に行った。	
	人権教育の推進	・効果的なDVD教材の導入する。 ・担当者が使いやすい教案を作成する。	・同和問題に関する効果的な視聴覚教材を導入する。 ・現代の状況に合った同和問題の教案を作成する。 ・同和問題の現状に関する職員研修を実施する。	B 3.9 教員評価 a:20% b:68% c:10% d:2%	B 3.7 教員評価 a:7.7% b:76.9% c:11.5% d:3.8%	・LGBTの講演(3年)、研修(職員)は、現在の社会問題とその理解に即した内容にすることができた。 ・部落問題解消推進法施行を受けての教案を作成することができた。 ・現在の部落問題に合った視聴覚教材を導入することができた。 ・部落問題の現状に関する職員研修実施の必要性がある。	
開かれ信頼される学校	学校情報の積極的な発信	・HPの内容の充実し、更新回数を増やす。 ・学校説明会を年3回以上行い、自校の特色の理解を深める。また参加申し込みを簡略化する。 ・出前授業や学校説明会等を実施する。 ・学校案内を作成し、Active! Ichikoを定期的に発行する。	・HPの内容更新のスピード化と視覚的向上を図る。 ・学校説明会参加者アンケートの満足度を90%以上にする。	B 3.5 教員評価 a:8.3% b:64.6% c:25% d:2.1%	B 3.8 教員評価 a:14% b:68% c:18% d:0%	・中学校への出前講座や中学校への説明会等への参加によって、市高を知ってもらう機会を設けることができた。 ・HPの更新についてスピード化を更に進めたい。視覚向上に努め、内容の充実を図りたい。部活動のページについては更新回数を増やすことができた。 ・学校説明会の目的および回数については概ね達成できた。アンケート満足度については向上するように検討する。学校説明会の申し込み方法をFAXおよび直接ホームページからの入力に変更した。	
	探究活動の充実	・学年と連携をとり探究活動の活性化を図る。 ・English Camp、とびたて！留学JAPAN等の国際理解教育の活性化を図る。	・保護者アンケート16「お子様を入学させてよかったですか？」および生徒アンケート19「市高へ入学して良かったですか？」の肯定的回答とともに80%以上にする。		A 4.1 教員評価 a:28.8% b:61.5% c:9.6% d:0%	・探究活動については、試行錯誤している部分が多く、今後も指導方法等の検討が必要である。 ・探究活動の達成目標としてこの内容がふさわしいか検討を要すると思えます。探究活動(特に普通科総合)については、どのように企画、推進していくべきかよく検討する必要があると思えます。教員が年度で入れ替わっても、生徒にとってその学習が継続でき、教員にとってその指導を引き継いでいける、指導方針や内容がしっかりしていることが望ましいと思えます。	探究学習の手応えを感じる成果である。今後は、より工夫をしながら教員が入れ替わっても継続ができるようにしてほしい。
特色ある学校づくり	GCコースの活性化	・国公立大学見学会をはじめ、大学見学会を実施する。 ・各教科・進路部と連携し、授業・補習・進路指導を充実させる。 ・英語検定取得に向けて、トワイライト講座を開講し、面接指導などの取り組みを強化する。	・進学実績の上昇を目指す。 ・卒業時までに英検2級取得率80%以上を目指す。 ・卒業時までに英検準2級取得100%を目指す。	B 3.6 教員評価 a:10.4% b:66.7% c:20.8% d:2.1%	B 3.5 教員評価 a:11.4% b:61.4% c:25% d:2.3%	・達成目標の「進学実績の上昇を目指す」は「生徒の実態に合った進路実現を目指す」の方がよいと思えます。 ・トワイライト講座で英検準一級講座を設け、その成果として英語検定第二回目までに準一級合格者1名を輩出した。他にも受験中の生徒もおり、今後の合格も期待できる。 ・全体的に英語検定への意識が非常に高く、積極的に受験している。	
		・さらなる特色化に向けて継続的な検討を行う。 ・京都語学実習・GCジョイント・English Camp・English Seminarを実施する。 ・他校国際科との情報交換を通して、行事の実施方法・特色化を探る。	・1年生12月から2年生12月までにGTECスコア10%アップを目指す。 ・京都語学実習・GCジョイント・English Camp・English Seminarの満足度を100%にする。 ・他校の研究授業、研修への職員の参加回数を増やす。	A 4.1 教員評価 a:22.9% b:70.8% c:6.3% d:0%	B 3.9 教員評価 a:15.6% b:71.1% c:13.3% d:0%	・GC生徒や担当教員の負担が過度にならないよう、行事等の精選をして行われるとよい。 ・GTECのスコアについては結果待ちである。 ・GCジョイントをEnglish Campの成果が活かせる活動に変更するなど、新たな取り組みが従来の行事の改善へとつながっている。	
	商業科の活性化	・商店経営実習やオープンハイスクールなどの各種行事を生徒が企画し、運営する。	・商店経営実習として10月に「俳句カフェ」を実施、10月の商業科オープンハイスクールでは、生徒が体験授業などの内容について企画、運営する。 ・外部講師による全商英検講座を実施、1月の簿記および情報処理の検定について、級別の補習を組織的に10日間以上行う。	B 3.8 教員評価 a:14.6% b:70.8% c:12.5% d:2.1%	A 4.1 教員評価 a:29.2% b:60.4% c:10.4% d:0%	・商店経営実習やオープンハイスクールでは生徒が主体となって運営することができた。細かい部分でトラブルが発生することがあったので、来年度に向けてフォローできる体制を整えたい。 ・全商英検講座は生徒に好評だったが、合格率が伸びなかった。他の検定試験についても同じようなことがいえるが、補習の実施時期や回数を見直しを行いたい。 ・商業科の各行事の企画・運営は特色が発揮されて、たいへん成果を上げている。	地域連携の1つとして、子ども食堂にも取り組まれてはという提案がありました。

平成29年度の自己評価のグラフ

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った

